

展示

■常設展示室(総合)

1 オリエンテーションコア

2 歴史展示

① 奴国の時代

② 大陸との接点“西の都”

③ 宋・元と博多

④ 博多町衆の活躍

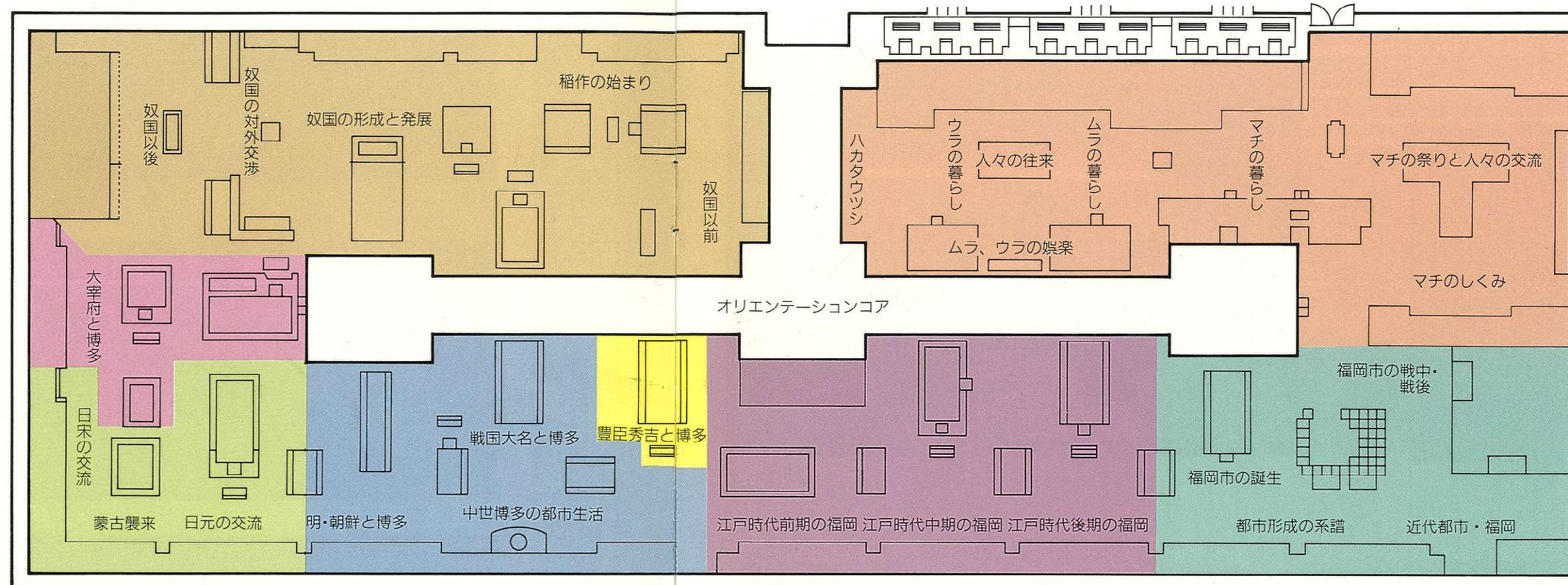
⑤ 豊臣秀吉と博多

⑥ 福岡藩の時代

⑦ 福岡の近代化

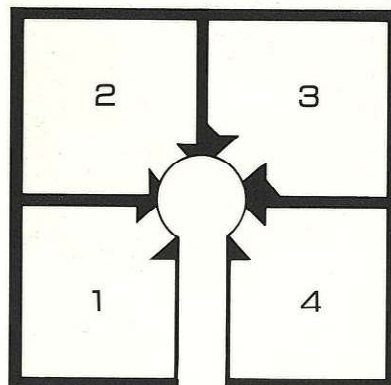
3 民俗展示

① マチ・ムラ・ウラの交流



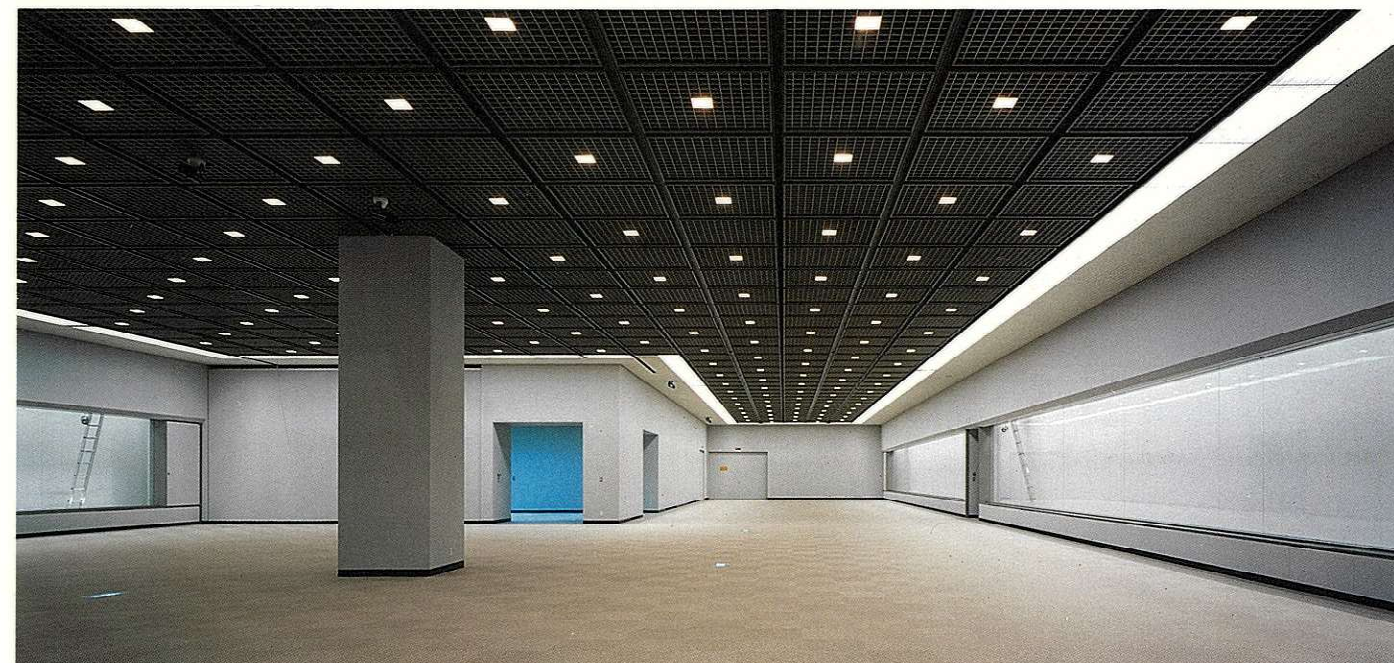
■常設展示室（部門別）

歴史、考古、民俗、美術工芸等を
部門別・テーマ別に展示。



■特別展示室

館主催の特別企画展、団体の企画展



平成25年11月3日（日）、福岡市博物館は生まれ変わります。

参考（配布）資料②

なにが変わる？ どう変わる？ **Point1**

常設展示リニューアル

一開館23年目、初めての全面刷新

【新しい常設展示の特徴】

「金印」と「山笠」という2つのコア・ゾーン

ー日本中の誰もが知る郷土の「宝」を伝える

■ 金印 ー 国宝「金印」から、世界を眺める・歴史を紐解く

- ◇「金印・出会いのギャラリー」（仮称）にて、本物をじっくり観賞。
- ◇「金印・学びのギャラリー」（仮称）にて、金印大解析、古代東アジア世界のしくみ、発見のいきさつ、研究の歴史など、金印にまつわるあらゆる事象を解説。



←出会いのギャラリー（仮称）

学びのギャラリー（仮称）→

■ 山笠 ー 博多祇園山笠から、人と地域の絆に触れる

- ◇昇き山の実物を展示
- ◇藩主に献上された山笠下絵など、江戸時代の実物資料を見せる
- ◇人の一生に深く絡む山笠のさまざまな局面を紹介



【新しい常設展示の構成】

1. 金印の世界

2. 福岡のあけぼの	旧石器時代～縄文時代
3. 奴国の時代	弥生時代（紀元前 10 C?～3C）
4. 鴻臚館の時代	古墳・奈良・平安時代前期（4 C～11C）
5. 博多綱首の時代	平安後期・鎌倉時代（11C～14C）
6. 博多豪商の時代	南北朝・室町・戦国時代（14C～16C 末）
7. 福岡藩の時代	江戸時代（17C～19C 後半）
8. 近代都市福岡の時代	明治・大正・昭和時代（19C 後半～20C 半）
9. 現代の福岡	昭和時代（高度経済成長期）～現代
10. 福博人生	民俗展示

11. 山笠の世界

常設展示室ー福岡市博物館 2F 総面積 2121㎡

福岡 一大陸に一番近いこの地は、古来、誰も知らなかった文化に初めて触れ、経験したことのない生産手段・経済活動を発展させ、遭遇したことのない脅威を克服して、豊かな「まちー都市」を営みつづけてきた…



Point2

新しい情報システム（仮称）てくてくミュージアム

観光コンシェルジュにもなるミュージアム

ー博物館の文化財デジタルアーカイブ×観光

■ 博物館の魅力発信アプリ提供

- ◇お出かけ先でもダウンロード。出張・買い物・野球コンサート観戦のついでに博物館へ。

■ 知りたいことをその場で

- ◇展示室内で、展示物の前で、博物館のデジタルアーカイブにアクセス（手持ち情報端末 OR 貸出端末）。詳細情報をその場で知る

■ 博物館のアーカイブが提供するオリジナルの史跡・名所観光案内

- ◇展示を見ながら、各人が端末ディスプレイの「よか」ボタンを操作すると、展示見学終了後に「あなたにおすすめの観光コース」が提供される

■ 遊びどころが学びの契機にーAR（拡張現実）

- ◇展示室内、展示物に情報端末をかざすとそこには無い「何か」が登場



Point3

ユニバーサルデザイン



多様な人が、楽しく安心して過ごせる施設へ

■ 「みたいけんラボ」、「赤ちゃんの駅」の知名度UP

- ◇ こどもが楽しく、子育て世代が過ごしやすい博物館として地域にも貢献

■ ユニバーサルデザインの理念にそって

- ◇ なるべく多くの情報を、視覚以外でも、日本語以外でも
- ◇ 設備仕様、標識類の見直しだけでなく、UDの理念にそった接遇のしくみを検討



Point4

新しい「顔」づくりーブランディング

福岡市博物館の「らしさ」を再構築・再発信

■ ロゴとシンボルマークを再設定

- ◇博物館・美術館・アジア美術館の3館それぞれの「個性」を象徴するアイコンが、「めぐる楽しさ」「えらぶ楽しさ」を印象づける

■ 博物館「らしい」「ならでは」のノベルティやグッズを開発

- ◇めざせ、世界を震撼させる激レアグッズ
- ◇堅〜いけど、実は便利！博物館の専門刊行物の利用・購買も促進